

# 福音の園だより

【第十六号 二〇〇六年 四月 七日発行】

350・0016 埼玉県川越市木野目一八七八番地一

特定非営利活動法人 福音の園・埼玉 事務局

☎ 049・230・1111

FAX 049・230・1112

## ご家族の声

お母さん、九六才おめでとー！

「Tおばあちゃん」はつきりした日本語で日中混血のひ孫、Kは写真を指差した。最近是一年に数回しか会う機会がない。それでも「顔」と「T」という名前は三才になったばかりのひ孫の頭と心に刻まれていた。周囲にいたオトナ達はびつくりしながらも、新しい世代に確かな何かが引き継がれつつあることに感動させられた。

お母さんと同じく私も娘も三十才を過ぎた晩婚だった。でも、着実に家族の歴史は継がれている。私も六十五才になりました。久しぶりに神田駿河台の浜田病院に行ってみました。お母さんが三十一才を目前にして初産で私を世に出してくれた病院です。百十年前に創立された病院は今でも落ち着いたたたずまいでした。自分が生まれた「場所」が当時のまま存在していること、私は幸せです。逆子だったため、分娩時は仮死状態で当時の一流の治療があったらばこそ、「S」は生きていると何回も聞かされました。言われた通り生きています。お母さんの思い通りの息子に育っているでしょうか。お母さんは「反骨」精神の女性でした。「人間」として生きた女性でした。もつと、簡単に生き抜

けた筈なのに妥協もせず、媚もうりませんでした。常に「自分が実存していたのです。」「男女共同参画社会」を体現し続けた女性と私は誇りに思っています。

先月、お母さんは介護認定で前年の「要介護4」より「要介護3」に判定されました。少し少しいことですが戻ったのです。お母さん、同じ故郷、仙台の荒川静香さんと同じ金メダルだと思つて下さい。「福音の園」の皆様はひたむきな愛情とご努力をお母さんは心の奥深くでしっかりと受けとめていたのでしょうか。「学問」が人を生かすと教えてくれたお母さん、ありがとー。(S・S)

## スタッフ動向

「二ちらは北海道滝川市ハローワークです」

グループホーム福音の園・川越 ホーム長 杉澤 卓巳

求人応募者照会電話が入った時は、一瞬耳を疑い、

「北海道の滝川市ですか？」と問い返してしまつた。

各階ケアマネージャーと共に面接して採用内定。三月一日より二階看護職として勤務開始。これで二〇〇四年十月一日開園時より履行してきた「各階に看護師配置」を継続できた。

後日談。ハローワークへ出向き、求人票を作成していたら隣席から声を掛けられた。市内のある老人施設の施設長さんだった。用件を告げると、「うちも看護師募集を出しているがなかなか来てくれない」と返答下さった。ハローワーク手続き後、わずかの期間で、しかも北海道から転居して働いて下さる看護師さん。これはもう人知の及ばない、支援者の方々が祈つて下さる「福音・祈りの世界」び出来事であると認めざるを得ない。

## 福音の園は私の家、心の休憩所

私は一年半という時をホーム長様、職員様、利用者様と過ごさせて頂き、感謝の気持ちでいっぱいです。勤め始めた当初は初めて経験することばかりで戸惑うこともありましたが、苦手の料理も煮物が作れるようになりました。福音の園は私の家であり、心の休憩所です。ですがこの度、悩み悩んだ末、三月一日、特別養護老人ホーム「練馬キングス・ガーデン」に入職しました。福音の園での経験、そして新たな発見が、自分に足りないものを気付かせてくれました。それをキングス・ガーデンでしっかりと学び、更なる成長に繋げたいと思います。私を暖かい心で支えて頂き、本当に有り難うございました。(介護職 A・S)

生き甲斐活動・民謡の会(隔週日曜日) 紹介

## 笑顔と唄と手拍子と

ボランテイア 民謡半玉会 K・U

皆様と一緒に、なじみの民謡、故郷の唄、盆踊り唄を手拍子、踊りをまじえて共に楽しんでおります。唄、音楽は年令、国を越え、心と心が通じ合えるものと思つております。ホームのあつたかい雰囲気の中での明るい笑顔の皆様と過ごす一時間は、昔の楽しい大家族を思い出します。

私達は、唄い手のR・Aさん、尺八の先生、I・Aさん、三味線のS・Sさん、おなじみのT・Kさん、Uの5名です。これからも「民謡と共に」楽しい小旅行に皆様と一緒に出かけよう。

(川越市小中居)

御礼 ジャガイモ・玉ネギ

U・T様(北海道・共和町)